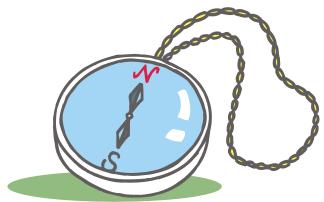


# 羅針盤



第33号

令和7年3月24日(月)

## ◆ 「前へ」

「前へ」は、長きにわたって明治大学ラグビー部の監督を務めた北島忠治（ちゅうじ）が唱えたスローガンです。このうえなくシンプルであり、そして、力強い言葉です。北島監督は28歳のときに明治大学ラグビー部の監督になり、95歳で亡くなるまでの67年も現役の監督として活躍されました。その北島監督が、選手たちに言い続けた言葉はただ一つ、それが「前へ」です。細かい戦略を言うのではなく、「前へ」という気持ちを徹底して選手に植えつけて、弱小だったラグビー部を早稲田大学と並ぶ大学日本一にまで押し上げました。「前へ」というスローガンは、勝ち負けよりも前へ進むことを重んじる精神を示しています。もちろん試合で勝つことは重要なことです。しかしそれ以上に、「困難な状況でも逃げずに前へ進んで乗り越えていく生き方を学んでほしい」という、北島監督の思いがこの言葉には込められています。たとえ「横にパスを回せばトライ（得点）に結びつく」といった場面でも、明治大学ラグビー部の選手たちは絶対に「前へ」押していきます。選手全員の精神として根付いていて、それが伝統として受け継がれ、「前へ」という価値観が共有されている表れです。壁にぶつかったり、困難なことに出会ったりしたとき、もちろん横へよける手もあります。しかし、迷ったときには、とにかく「前へ」、「前へ」と進み行く。自分を信じて進む。すると道が拓けていくということを教えてくれています。人生のあらゆる場面で、この言葉は大きな「力」を与えてくれるのではないでしょうか。失敗して傷つくのが怖く、なかなか踏み出せないことがあるかもしれません。新型コロナウイルス感染症の影響により、日常の暮らししぶりといったものも大きく変化を遂げた時代となりました。迷わずに進み続けることの方が、難しいのも事実です。しかしながら、こういった時代だからこそ、あれこれと迷っているよ

は、一歩でも「前へ」。たとえ半歩でもいいから、踏み出していくことが大切な気がします。勇気を持って踏み出してみれば、見えている景色が変わるはずです。行動することで何かが変わる。次にやるべきことが必ず見えてくるはずです。挑戦し続ける気持ちを忘れずに、困難な状況に出会ったときにこそ、決して逃げることなく、「前へ」、「前へ」と進み行く人に成長していってくれることを期待しています。

本日、無事に修了式を終えることができました。明日より、2週間の春休みに入ります。ご家庭でも、健康には十分な注意を払いながら、子どもたちが規則正しい生活を過ごせますよう、ご指導をお願いいたします。また、来年度も引き続き、校長室だより・羅針盤を定期的に発行する予定をしています。城陽中学校の全ての子どもたちのために、よりよい教育活動を展開していく道標となるよう、更なる研鑽を積んで参りますので、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。（校長 坂井伸治）

